

高精度放射線治療システムの実態調査と臨床評価に関する研究

・はじめに

放射線治療は近年非常な進歩をとげ、先進的な放射線治療機器の導入が進み、体幹部定位放射線治療、強度変調放射線治療、画像誘導放射線治療などの高精度放射線治療が実施可能となっています。しかし、これらの治療の実施には、放射線腫瘍医、医学物理士等の人員配置、機器の運用や品質管理体制等の「診療の質」の充実が不可欠です。しかし、実際に各施設においてどの程度の「診療の質」が担保されているかについてのサーベイはほとんど行われていません。そこで、厚生労働科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業の援助を受け、本研究を企画いたしました。

・対象

調査の対象は、訪問調査に許可をいただいた施設（全国約50施設を予定しています）にて、2010年1月1日から2011年3月31日までに前立腺癌または頭頸部癌で強度変調放射線治療を受けられた方、および肺癌で体幹部定位放射線治療を受けられた方のうち1施設当たり10～30名を対象に致します。

・研究内容

訪問調査先の施設にて、上記治療を受けられた方の放射線治療記録等を参照させていただき、どのような治療が行われたかを個人を特定できる情報を削除した状態で調査します。また、治療計画装置という放射線のあて方や量などを設定するコンピュータで作成されたデータ（DICOM-RTデータと言います）を収集します。このデータには個人情報が含まれていますが、特殊なソフトウェアで個人情報を削除した状態で集めますので、個人情報が訪問調査先の病院外にでることはなく、第三者が個人情報を閲覧することはできません。

このようにして、全国の施設からデータを収集し、施設ごとの放射線腫瘍医、医学物理士等の人員配置、機器の運用や品質管理体制等とあわせて解析し、全国の放射線治療の質の向上を目指します。

・個人情報の管理について

上記に記載していますように、個人を特定できる情報を削除して、すなわち連結不可能匿名化してデータを集めますので、第三者が個人情報を閲覧することができません。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患

者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されな
いかたは、下記連絡先までご連絡下さい。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成26年3月31日まで

・医学上の貢献

本研究により調査対象となった患者さんが直接受けることができる利益はあ
りませんが、将来研究成果は放射線治療の質の向上およびがん医療水準の均て
ん化に貢献することが期待され、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可
能性が高いと考えます。

・研究機関

九州大学大学院保健学部門・教授・平田 秀紀(責任者)
九州大学病院放射線部・准教授・中村 和正
九州大学大学院保健学部門・准教授・有村 秀孝
九州大学大学院重粒子線がん治療講座・教授・塩山 善之
九州大学大学院医学研究院・講師・佐々木 智成
九州大学大学院保健学部門・大学院生・馬込 大貴
九州大学大学院保健学部門・大学院生・垣内 玄雄

共同研究機関：

埼玉医科大学・教授・鹿間直人、同・助教・熊崎祐、同・助教・大谷侑輝
千葉大学・教授・宇野隆
琉球大学・准教授・戸板孝文
国立がん研究センター・医長・角美奈子
山梨大学・准教授・大西洋
愛知県がんセンター中央病院・部長・古平毅
大阪大学・教授・小川和彦
大阪大学・教授・小泉雅彦
広島大学・助教・権丈雅浩
滋賀県立成人病センター・部長・山内智香子
大阪大学・教授・手島昭樹、助教・沼崎穂高

連絡先：中村 和正、平田 秀紀

電話：092-642-6726 九州大学大学院医学研究院 保健学部門